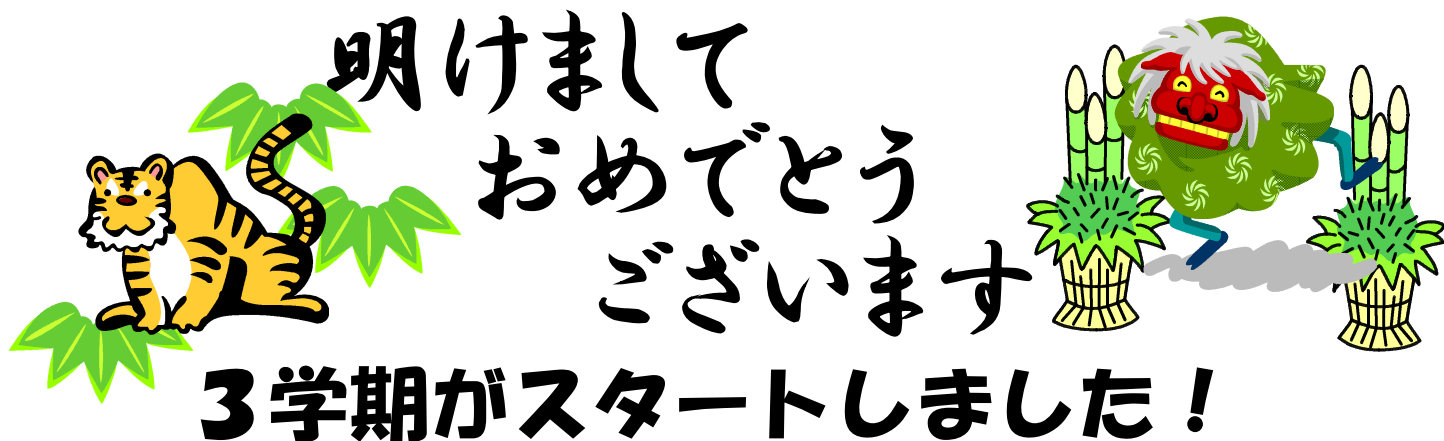




Vol.51 2022.1.8



いよいよ2022年がスタートしました。世の中は皆おめでたい雰囲気一色ですね。とにかく新年を迎えるというのをおめでたいものなのです。毎年のことながらめでたい新年の始まりということでテレビもお笑い番組や特別番組のオンパレードです。しかし今年はみんなにとっては大きな飛躍の年になるんですよ。これまでのことは置いておき、いよいよ「受験」が始まるのです。

さて元日の朝、みんなはいったいどんな豊を抱いたのでしょうか？「よ～し！今年は頑張るぞ！」と意気込んだ人がたくさんいることでしょう。毎年ですが、きっと冬休み中に毎日10時間以上も受験勉強を続けた人もいることだと思います。また、受験勉強の傍ら体力作りに励んだ人もいたかもしれません。受験・受検・卒業が目の前に迫ったこの3学期を、みんなにとって大きく飛躍する学期にしていこう！そして2022年をこれまでにないすばらしい年にいこう！

私立高等学校等の願書提出終了!

みんなに昨年12月17日（金）までに提出してもらった私立高等学校等の願書は、その直後から3年部や他学年の先生方にも協力していただき、何度も何度も見直しをして、その他のすべての書類をそろえ、それぞれの学校の受験料を金融機関に振り込み、1月5日（水）にそのすべて提出しました。

みんなは、これでまたさらに一歩前進して「真の受験生」となったのですね。いよいよ私立高等学校等入試までに残された日々は20日間あまり！これまでの頑張りの成果を最大限に発揮するためにも、これから受験日までの日々をさらにバージョンアップさせていこう!



過去問の取り組み方

いつから？何年分解くべき？注意すべきポイントは？

過去問は5年分、3回以上を目安に！

過去問演習は、入試問題の傾向をつかんだり、問題の形式に慣れたりすることができるので、受験対策として大変有効です。受験する県の入試問題、併願する私立高校の過去問演習は必ずやっておきましょう。実際、過去問にどのように取り組めばよいのか、以下にポイントをまとめました。

1. 過去問は5年分を解く

出題傾向をつかみ、問題の形式に慣れるためには、前年度の過去問だけではなく、複数年度の過去問に取り組む必要があります。できれば、過去5年分は解いていきましょう。

2. 本番と同様に時間を計って取り組む

過去問に取り組む際は、必ず時間を計って取り組むようにしてください。開始時間も、試験時間も、本番の時間割どおりに取り組む日もつくりましょう。少しでも本番慣れし、試験当日のリズムをつくれるように、時間の感覚を体に覚え込ませることが大切です。最初のうちは時間が足りなくなり、全問解けないかもしれません。でも大丈夫です。繰り返し、過去問に取り組むことで、解ける問題から解くなど時間配分の工夫のしかたやスピードが身につく、時間内に解けるようになっていきます。注意しなければいけないのは、時間が足りなくて解けなかった問題です。解かないままにせず、必ず解いて答え合わせもしましょう。

3. 間違えた問題は必ず解き直す

間違えた問題は解答解説を読んで、この問題を解くためのポイントはなんだったのかを確認することが大切です。そして次回解く際にはそのポイントを意識して解くことができたか、確認しましょう。過去問を解くことで、今どういう問題が解けて、どういう問題をニガテとしているのか、自分の課題を知ることができます。そしてその課題をクリアしていきましょう。1回目は正解だったのに、2・3回目で間違えた問題は要注意！理解していなかったということです。ここでしっかり理解し、実力にしていきましょう。

4. 平均点を参考にする

鹿児島県教育委員会から過去の入試の全体平均点が発表されています。平均点は問題の難易度により毎年変動します。その年の問題の難易度の参考にもなりますので、確認しておきましょう。

○全日制普通科合格者 各教科の平均点

R3年度 総得点：291.9点 国語：56.5点 社会：60.4点 数学：55.8点 理科：57.2点 英語：62.0点

○全日制専門学科合格者 各教科の平均点

R3年度 総得点：195.4点 国語：43.2点 社会：39.8点 数学：36.8点 理科：35.6点 英語：39.9点

5. 上記の1から3を3回以上繰り返す

時間内に目標点が取れるようになるまでやるのが理想です。最初は目標点に届かないと思いますが、繰り返し解くことで解けるようになっていきます。同じ年度の過去問を少なくとも3回繰り返し解くことがおすすめです。「最低でも〇〇点が取れるようにするぞ！」と目標点を設定して取り組み、毎回の点数もメモしておき、1回目よりは2回目、2回目よりは3回目と点数がUPしていくことをめざしましょう。

5教科・1年度分で約10時間必要。今から過去問に取り組もう！

間違えた問題の解き直し時間も必要！

過去問の演習を通して実力を高めていくためには、できなかった部分の解説を読んで理解したり、もう一度自分で解き直したりする学習が必要です。得点状況にもよりますが、復習や解き直しにしていねいに取り組めば、30分から1時間くらいはかかります。解答する時間と自己採点、これに復習や解き直しも含めると、1教科で1.5から2時間程度はかかるのです。5教科・1年度分で約10時間！5年分やるとしたら37.5から50時間。3回繰り返すのならこの3倍の時間が必要です。これだけの時間を入試直前に作ろうと思っても難しいものです。さっそく、過去問対策に取り組みましょう。以上、大変厳しいことを書きましたが、これだけやれば、きっと合格に近づいていきますし、これだけの問題数をやりきったということは、かなりの自信になります。ぜひ、しっかりとやりきって、志望校の合格を勝ち取りましょう。